平成30年度　甲佐町立甲佐小学校　学校便り

清　流

目指す学校像

子どもの笑顔が輝き
勢いのある学校

No.19（H30. 9. 20発行）文責 校長 福田雅也

「親ばか」という言葉がありますが…

今日は朝から少し強い雨が降っていました。私は、毎朝登校時間に校区内を歩き回っていますので、今日も、学校近くの横断歩道を中心に登校する子どもたちを迎えました。いつものように、子どもたちと挨拶を交わしながら、横断旗を振っていると、その横を子どもたちを乗せた保護者の車が学校へ向け走り去っていきます。すると、子どもたちから「いいなー　〇〇ちゃんは　車で…」という声が聞こえてきます。すかさず私は、次のような声を掛けました。
「雨だけど頑張って歩いてきたあなたたちは、えらいぞ！」「雨でも歩いてくることで我慢強くなるよ！」…と

そして、このようなことは今日だけではないのです。雨の日に毎回繰り返されていることなのです。

世間には、「親ばか」という言葉があります。一般的には、良くない意味で使われる言葉だと思います。しかし、親が自分の子どものために「ばか」になることが、そんなに悪いことでしょうか。私は、決して悪いことではないと思います。親は、自分の子どもに対してそのくらいの愛情をもって当然だと思います。むしろ、親が子どものために「ばか」にならずして、誰が「ばか」になれるでしょうか。

しかし、そこで考えていただきたいのです。世間で使われている「親ばか」は、その愛情がすべて「甘やかし」として表れている場合に使われているので、良くない意味となっているのです。本当に愛情がある親は、自分の子どもに対して、親にしかできないと思われるくらい厳しく躾ける場面が当然あるはずです。それも含めて「親ばか」と考えれば、私は、決して悪いことではないと考えているのです。

このように考えたとき、冒頭の場面をどのように思われるでしょうか。この機会にそれぞれのご家庭で少し考えていただければと思います。

もちろん、それぞれのご家庭に様々な事情があることは分かっています。学校からの距離や学年もいろいろです。また、このご時世、登下校中に子どもが事件や事故に巻き込まれない保障はどこにもありません。雨の日の登校となればその可能性が増すことは当然です。ですから、学校側が雨の日も徒歩で登校することを強制することはできません。

ですから、私にできることは、頑張って歩いてきた子どもたちをほめ、そのことに価値付けをしてやることだと考え、声かけをしているのです。

前任校時代も含めると、私が学校だよりを書き始めて5年目になります。その中で一番気をつけていたことは、決して私の価値観を押しつけたり、説教調の内容になったりしないようにすることでした。

残念ながら、今回はどうしてもそのような書きぶりになってしまったことをお許しいただきたいと思います。